

2021.12.5 待降節第2主日

荒野で叫ぶ者

ルカによる福音 3:1-6

皇帝ティベリウスの治世の第十五年、ポンティオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデがガリラヤの領主、その兄弟フィリポがイトラヤとトラコン地方の領主、リサニアがアビレネの領主、アンナスとカイアファとが大祭司であったとき、神の言葉が荒野でザカリアの子ヨハネに降った。そこで、ヨハネはヨルダン川沿いの地方一帯に行き、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。これは、預言者イザヤの書に書いてあるとおりである。

「荒野で叫ぶ者の声がある。

『主の道を整え、

その道筋をまっすぐにせよ。

谷はすべて埋められ、

山と丘はみな低くされる。

曲がった道はまっすぐに、

でこぼこの道は平らになり、

人は皆、神の救いを仰ぎ見る。』」

説教

いきなりですが、わたしはバプテスマのヨハネが好きじゃありません。イエスの福音に関係ないというか、じゃまくさい感じがするからです。ラクダの皮をまとって荒野で叫んでいるちょっとおかしい宗教者だなあと思うからです。でもヨハネが荒野で叫び、人々にヨルダン川で洗礼をしていなければイエスはどのようにして世に現れたのでしょうか。現代からみればイエスがガリラヤ湖で弟子を集めるところから福音が始まってもべつに違和感はないのですが、当時のユダヤ人たちに説得力があったのでしょうか。

伝統的なユダヤ教が退廃し、それに反対するヨハネの宗教活動が多くのユダ

ヤ人に受け入れられていたとすれば、ヨハネの洗礼はいかがわしい新興宗教ではなく宗教刷新運動です。ラクダの毛衣を身にまとい、いかにも古代の預言者ゼンとしたヨハネは宗教改革者として十分な資質があります。

主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。谷はすべて埋められ、山と丘はみな低くされる。曲がった道はまっすぐに、でこぼこの道は平らになり、人は皆、神の救いを仰ぎ見る。ルカ 3:4-6

ヨハネが準備したこの花道からイエスは颯爽とこの世に登場しました。イエス物語のプロローグとして非の打ちどころがありません。

わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。マルコ 1:7-8（平行箇所マタイ 3:11、ルカ 3:15、ヨハ 1:24）

イエスは単なる宗教改革者ではないと予言してヨハネ物語の幕は閉じます。クリスマスを待ち望むわたしたちに「荒野で叫ぶ者」の声が響きますように、そして主の平和がありますように。
